

CONTENTS

- 01 CEO中村和男メッセージ
- 03 当第2四半期業績のご報告
- 04 2015年9月期の見通し
- 05 特集1 Project Phoenix
- 07 特集2 国内最大の医薬品分析CROへ
- 09 事業別概況
- 11 連結財務諸表
- 13 2015年上期トピックス/
「東証IRフェスタ2015」に出展
- 14 株式の状況/会社概要
- 巻末 株主メモ/ご案内/healthクリックの健康コラム

CMIC REPORT 2015

シミックレポート 2015

シミックホールディングス株式会社 第31期 中間ビジネスレポート
2014.10.1-2015.3.31



CMIC

Pharmaceutical Value Creator

証券コード: 2309 東証一部



中村和男
代表取締役CEO

株主の皆様には、日頃より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。
 医薬品業界におきましては、政府の成長戦略において医療関連産業活性化の方針が示され、産官学連携を通じた迅速な新薬創出を促進するとともに、ジェネリック医薬品の普及促進のため数量シェアを2018年3月末までに60%以上に高める目標を設定するなど、社会保障費を抑制するための取組が進められています。さらに2014年4月には、薬価収載後一定期間を経過してもジェネリック医薬品への置換えが60%未満の長期収載品について、薬価を特例的に引き下げる薬価改定が実施されました。先発医薬品を扱う製薬企業においては、主力製品の特許切れに加えて、収益基盤であった長期収載品の薬価引下げによる収益構造の変化に直面し、医薬品の開発から営業・マーケティングに至る全てのバリューチェーンにおいて組織体制の最適化を図り、経営効率を一層高める取組が進みつつあります。当社グループが属する業界におきましては、このような医薬品業界の変化に伴うアウトソーシングニーズを受け、支援業務の多様化や顧客との連携強化を図っています。また、企業合併や異業種からの新規参入等の業界再編も進む中、市場規模は拡大傾向にあります。

このような環境の下、当社グループは来期(2016年9月期)の業績V字回復を目指し、赤字事業の解消およびコスト構造の改革を推進し、更なる成長に向けたビジネスモデルの進化を図るProject Phoenix(プロジェクト フェニックス)を本格的に稼働させ、CMO、SMO(治験実施施設支援)、IPDの3事業の業績改善に向けてグループ一丸となって取組を促進しております。また、他の事業においても事業領域の基盤を強化するとともに、サービスの一層の充実を図ることにより、事業の収益性と生産性の向上および事業間シナジーの追求に取り組んでおります。

足元は厳しい状況ではありますが、Project Phoenixの着実な推進により、連結業績の回復を促進すべく尽力してまいりますので、何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

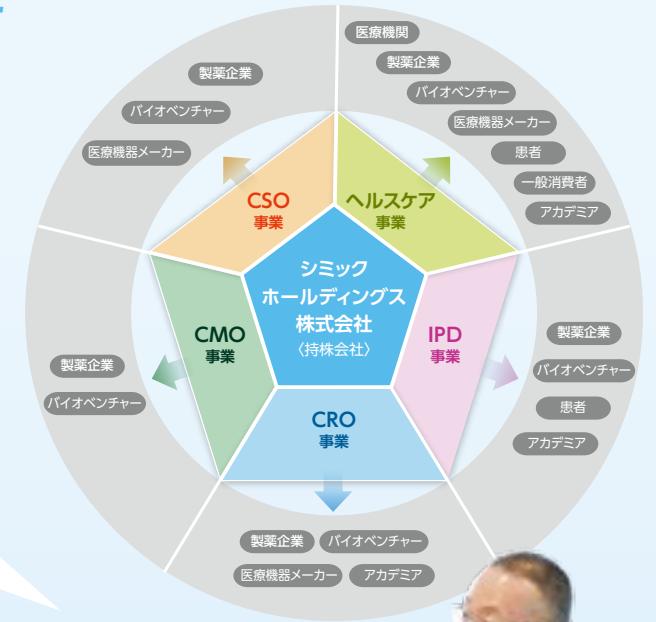
シミックグループのビジネスモデルと事業名

- PVC(Pharmaceutical Value Creator)..... 製薬企業の価値最大化を支援するシミックグループ独自のビジネスモデル
- CRO事業(Contract Research Organization : 医薬品開発支援) 製薬企業などに対し、医薬品の開発に関するサービスを提供する事業
- CMO事業(Contract Manufacturing Organization : 医薬品製造支援) 製薬企業などから医薬品などの製造に関する業務を受託する事業
- CSO事業(Contract Sales Organization : 医薬品営業支援)..... 製薬企業などに対し、医薬品の営業・マーケティング支援や、BPO・人材サービスを行う事業
- ヘルスケア事業 主に医療機関や患者、一般消費者の医療や健康維持・増進を支援する事業
- IPD事業(Intellectual Property Development : 知的財産開発) 診断薬や患者数の少ない疾病の治療薬(希少疾病用医薬品、オーファンドラッグとも言う)など自社で知的財産を開発する事業

Q A 当期業績と今後の展開について

Q 当第2四半期業績と通期見通しについて教えてください。

当第2四半期の売上高は、CRO事業の堅調な進捗とCSO事業の拡大およびシミックCMO(株)の業績が加わったことにより増加し、**26,511百万円(前年同期比3.9%増)**となりました。一方、**営業利益**は、ヘルスケア事業の前期受注の進捗遅れやシミックCMO(株)静岡工場の一部受託製品の生産終了の影響により、**542百万円(前年同期比68.9%減)**となりました。当第2四半期末の配当金は、**継続的かつ安定的な配当実施の方針のもと、前年同期と同額の1株当たり17.5円**とさせていただきます。**通期業績の売上高**は、既存事業の成長および第3四半期から(株)JCLバイオアッセイの業績が新規に加わることにより増加し、**55,700百万円(前期比5.4%増)**を見通しています。一方、**営業利益**はCMO事業およびヘルスケア事業における受注減少等に伴う利益率の低下により、**1,300百万円(前期比53.0%減)**となる見通しです。



Q 今後、業績は回復するのでしょうか?

来期(2016年9月期)の業績V字回復を目指し、赤字事業の解消およびコスト構造の改革を推進するProject Phoenixにおいて、CMO、SMO、IPDの3事業の業績改善に向けてグループ一丸となって取組を進めており、CMO事業は、**来期における業績の回復を見通**しております。SMO業務は、業績の回復はいまだ途上であるものの、前期に比べ受注高は増加しており、**来期業績の改善を目指**します。IPD事業においては、希少疾病用医薬品(オーファンドラッグ)等の製造販売承認の承継など新たな取組を通じて、**収益化の道筋**がつつきつつあります。他事業においても更なる業績の伸長、利益率の向上を通じて、**連結業績の来期回復**に尽力します。

Q 医薬品業界の変化にどう対応していきますか。

事業環境の変化は、**シミックにとってビジネスチャンス**だと考えています。新薬開発の促進、ジェネリック医薬品の普及や長期収載品の薬価引下げを背景に、製薬企業のアウトソーシングニーズは高まるものと想定されます。また、医薬品開発の担い手が、創業ベンチャーやアカデミアに広がり、製薬会社のビジネスモデルも創業から製造、販売までの一貫通貫型だけでなく、営業特化型や疾患特化型が出てきています。研究開発から製造、営業・マーケティングまでのバリューチェーンを持つシミックだからこそ、**変革期にある製薬産業における様々なニーズに対応**できることがあると考えています。





当第2四半期業績のご報告

当第2四半期連結累計期間においては、来期（2016年9月期）の業績V字回復を目指し、赤字事業の解消およびコスト構造の改革を推進するProject Phoenixにおいて、CMO、SMO、IPDの3事業の業績改善に向けてグループ一丸となって取り組みました。

連結業績につきましては、CRO事業、CMO事業、CSO事業、IPD事業において売上高が伸びました。CRO事業においては、グローバル化の進展により国際共同治験、多地域試験が増加しており、製薬企業のみならず、国内外の医療機器メーカー、アカデミア、バイオベンチャーなどからのプロジェクトが増加し、顧客層が拡大しています。また、海外バイオベンチャーからの最先端医療に関するコンサルティング案件が増加するなどの環境変化がみられる中、主力であるモニタリング業務および安全性情報管理の支援業務において新規受注および既存案件が堅調に進捗しました。CMO事業においては、シミックCMO(株)富山工場において新製造棟が本格的に稼働し、2014年4月に営業開始したシミックCMO足利(株)の業績が加わりました。CSO事業においては、製薬企業において営業予算削減とリソース配分の見直しが進められる中、既存大型案件の着実な遂行により売上を伸ばしており、コントラクトMRの業界シェアも拡大しております。IPD事業においては診断薬の販路拡大やオーファンドラッグ等3製品の製造販

売承認の承継契約を締結するなどの新たな取組により、売上高を増やしております。一方、ヘルスケア事業（SMO業務）において前期における受注進捗の遅れにより売上高が大幅に減少したことにより、連結売上高は26,511百万円（前年同期比3.9%増）となりました。

営業利益につきましては、ヘルスケア事業において売上高の減少に伴い稼働率が低下し、原価率が上昇したこと、CMO事業においてシミックCMO(株)静岡工場における一部受託製品の生産終了に伴う生産量の減少の影響が大きく、542百万円（前年同期比68.9%減）となりました。

経常利益は、主に営業利益の減少により、382百万円（前期比78.0%減）となりました。営業外収益として、為替差益等89百万円、営業外費用として支払利息および持分法による投資損失等249百万円を計上しております。

四半期純利益は、主に経常利益の減少により、113百万円（前期比84.7%減）となりました。特別利益として(株)シミックエムピーエスエス（現シミック・アッシュフィールド(株)）の株式売却益および受取保険金等723百万円、特別損失としてCMO事業における人事制度移行損失および損害賠償金等338百万円、法人税等合計679百万円および少数株主損失25百万円を計上しております。

2015年9月期 ■ 通期 ■ 第2四半期



2015年9月期の見通し

2015年9月期の連結業績見通しにつきましては、CRO事業において国内事業が順調に推移するとともに、第3四半期連結会計期間から(株)JCLバイオアッセイの業績が新規に加わること、またCSO事業において既存大型案件が着実に遂行することにより、売上高は55,700百万円（前期比5.4%増）となる見通しです。

営業利益は、第2四半期業績と同様に、CMO事業においてシミックCMO(株)静岡工場における一部受託製品の生産終了に伴う生産量の減少の影響と、ヘルスケア事業において売上高の減少に伴い稼働率が低下し、原価率が上昇したことにより、1,300百万円（前期比53.0%減）となる見通しです。

経常利益は、主に営業利益の減少により、900百万円（前期比66.0%減）となる見通しです。

当期純利益につきましては、経常利益の減少に加え、特別損益の増減および税率変更に伴う繰延税金資産の取崩し等による税金費用の増加等により、300百万円（前期比74.5%減）となる見通しです。

配当につきましては、継続的かつ安定的な配当を行うこと、株主の皆様のご支援に報いることなどを重視し、年間配当は35円（期末配当17.5円）を予定しております。

今期業績の見通しは厳しい結果を想定しておりますが、Project Phoenixを推進し、来期の業績V字回復を目指し、尽力してまいります。

当レポートに記載されている業績予想および将来予測などは、入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、さまざまな要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは異なる結果となる可能性があります。

2015年9月期通期見通し (百万円)

	2014(実績)	2015(見通し)	
売上高	52,836	55,700	+5.4% ↑
営業利益	2,766	1,300	△53.0% ↓
経常利益	2,645	900	△66.0% ↓
当期純利益	1,174	300	△74.5% ↓

2015年9月期通期見通し (セグメント別) (百万円)

	2014(実績)	2015(見通し)	
CRO事業	売上高	25,043	27,600 +10.2% ↑
	営業利益	4,830	4,810 △0.4% ↓
CMO事業	売上高	13,613	13,900 +2.1% ↑
	営業利益	379	△350
CSO事業	売上高	7,162	8,500 +18.7% ↑
	営業利益	645	680 +5.4% ↑
ヘルスケア事業	売上高	7,433	5,700 △23.3% ↓
	営業利益	△521	△930
IPD事業	売上高	498	760 +52.6% ↑
	営業利益	△546	△410
内部取引消去/調整額	売上高	△915	△760
	営業利益	△2,020	△2,500
合計	売上高	52,836	55,700 +5.4% ↑
	営業利益	2,766	1,300 △53.0% ↓

Project Phoenix

シミックグループは収益の伴った成長を実現するため「Project Phoenix」を立ち上げ、業績V字回復に向けてグループ一丸となって取り組んでいます。

「Project Phoenix」とは

赤字事業の解消

コスト構造の改革

更なる成長に向けた
ビジネスモデルの進化

CMO、SMO、IPDの3事業の業績改善に向けての取組

CMO事業 構造改革により来期業績回復へ

構造改革への取組による原価低減および積極的な受託活動により案件の引合いが増加しており、来期における業績の回復を見通しています。

サービス業に適した組織・人事制度への変更

- コスト競争力の向上

営業活動の強化

- 大口顧客依存体質からの脱却

差別化に向けた積極的な設備投資・技術力の向上

- 製剤開発力の強化・次世代抗体医薬品

M&A、海外パートナーとの連携



SMO業務 営業強化とコスト削減を推進

業界の競争激化および受注進捗の遅れにより、業績回復はまだまだ途上ですが、営業活動の強化により前期に比べ受注高は増加しています。来期業績の改善に向けたコスト構造改革の実施と更なる新規受託の獲得に邁進しています。

営業力強化

- 優良施設とのリレーション強化
- クライアントとの関係強化

採算性の向上

- 人材の効率的かつ機動的な活用
- 管理コストの見直し
- 拠点の統廃合、人員の配置転換

信頼性回復のための取組の継続

受注高の見込み



IPD事業 売上規模拡大により収益化へ

オーファンドラッグなどの製造販売承認の承継契約を製薬企業と締結するなど新たな取組を通じ、売上規模・マーケットを拡大、収益化の道筋がつつつつあります。

売上規模拡大

- 国内外の既存薬を積極的に導入・販売
- コ・プロモーション、コ・マーケティング
- 海外のバイオベンチャーなどからの導入

新たなローコストオペレーションモデルの検討

- シミック/メディカル両グループの人材・機能を活用
- WEB、コールセンターなどの活用

マーケット拡大



国内最大の医薬品分析CROへ

2015年3月、当社はバイオアナリシスおよび医薬品品質安定性試験受託事業を行なう(株)JCLバイオアッセイ(以下JCL)を株式交換により100%子会社といたしました。これにより、シミックグループは分析化学サービスを行う(株)応用医学研究所とあわせ、国内最大の医薬品分析CROとなりました。



CMIC, Inc. (米国)



JCL西脇ラボ



分析装置 LC-MS/MS

Q JCLはどんな会社?

医薬品開発におけるバイオアナリシスに強みをもつ会社として、国内では兵庫県西脇市と大阪府吹田市に、海外では米国イリノイ州に研究拠点を展開しています。日本と米国に研究所を有する唯一の分析CROです。

会社概要

設立	2005年4月1日
従業員数	160名(2015年4月現在)
事業所	大阪オフィス、横浜オフィス
研究所	西脇ラボ、大阪ラボ、米国ラボ



Q 「バイオアナリシス」って何?

主に**血液中の薬物の濃度を測定する分析試験**のことで、新薬開発の過程でなくてはならない試験です。生体に投与した薬物が体内に吸収され、薬効を発揮し、体外に排出されるまでの流れを正確に把握するために血液や尿などの生体試料中の薬物濃度を時系列で測定します。

Q 子会社化のメリットは?

シミックグループは、分析化学サービスを行う応用医学研究所において、医薬品の品質保証および薬物動態に係る試験を受託しており、品質保証試験の中核となる安定性試験では国内有数の実績を有しています。一方、JCLは生体試料中の薬物濃度測定試験の高感度分析を強みとして国内有数の実績を有しており、医薬品品質安定性試験も行っていきます。**応用医学研究所とJCLのそれぞれの強みを活かし、相互補完的にサービスを提供することにより分析CRO事業における競争優位性を高めることができます。**

Q シミックグループの今後の展開は?

国内最大の医薬品分析CROとして、**市場競争力のさらなる強化**を目指すとともに、非臨床安全性試験や薬効薬理試験等を行なう(株)シミックバイオリサーチセンターと連携し、非臨床分野の強化を図ります。また、シミックがもつ米国CMO事業とJCLの米国ラボ (CMIC, Inc.) との連携を通じ、**米国におけるCRO・CMO事業の拡充**を目指してまいります。

ダイバーシティ

「女性が活躍する会社Best100」で
59位にランクイン!

「日経WOMAN」2015年6月号「女性が活躍する会社Best100」にてシミックが**総合ランキングで第59位(昨年75位)にランクイン**しました。

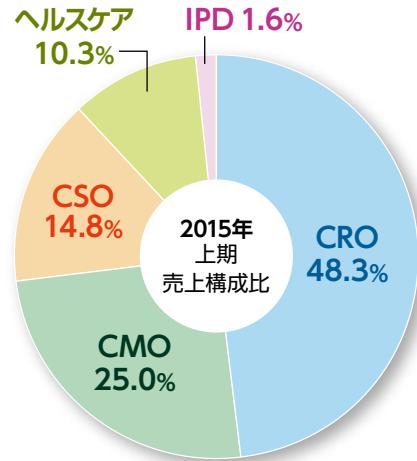
このランキングは、管理職登用度、ワークライフバランス度、女性活用度、男女均等度の合計得点を偏差値に換算してランクづけしたものです。

シミックグループは今後も、様々なライフイベントに対応する独自の人事制度を整えるとともに、女性の登用や働きやすい職場環境づくりを積極的に取り組んでまいります。



日経BP社「日経WOMAN」
2015年6月号より

事業別概況



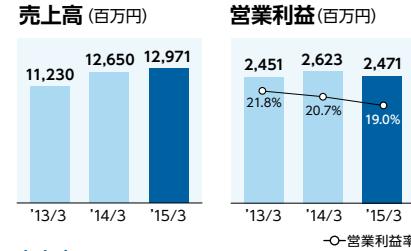
(株)応用医学研究所および(株)JCLバイオアッセイは、2014年10月1日付で報告セグメントをCMO事業からCRO事業に変更しています。事業別概況の数値につきましては、当該変更後の区分に基づいて記載しています。

主要顧客と業務



CRO (医薬品開発支援) 事業

主に製薬企業に対し医薬品開発(臨床試験など)を支援する事業



売上高

モニタリング業務および安全性情報管理の支援業務において新規受注および既存案件が堅調に進捗したことなどにより、前年同期を上回りました。

営業利益

非臨床業務およびデータマネジメント業務における価格競争などの影響により、前年同期を下回りました。

Topics

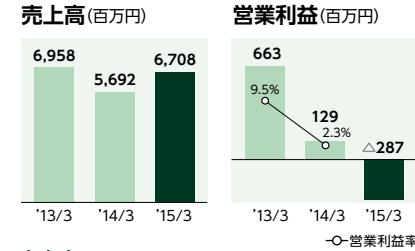
非臨床業務強化のため、バイオアナリシスおよび医薬品品質安定性試験事業を行なう(株)JCLバイオアッセイを100%子会社化しました。(株)応用医学研究所および(株)シミックバイオリサーチセンターとあわせ国内最大の医薬品分析CROとして事業連携を推進しています。

非臨床試験・臨床試験(治験)、承認申請、製造販売後調査、分析化学サービス等、開発全般の支援



CMO (医薬品製造支援) 事業

主に製薬企業から医薬品などの製造業務を受託する事業



売上高

シミックCMO足利(株)の業績が加わったことなどにより前年同期を上回りました。

営業利益

シミックCMO(株)静岡工場における一部受託製品の生産終了に伴う生産量の減少などにより、営業損失が発生しております。

Topics

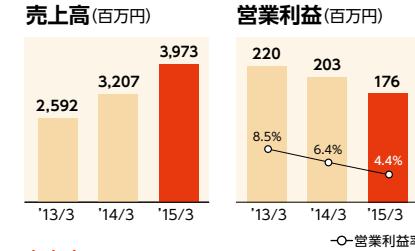
シミックCMO(株)富山工場において新製造棟が本格的に稼働し、新規案件の受託生産を順調に実施しています。次世代抗体医薬品の製造開発を行うシミックJSRバイオロジクス(株)において、静岡事業所内に実験棟の建設を進めています。また、バイオ医薬品に関する技術導入を図るため、米国のバイオ医薬品開発・製造受託会社KBI Biopharma Inc.をJSR(株)および(株)産業革新機構と共同で買収しました。

製剤開発、治験薬・医薬品の受託製造



CSO (医薬品営業支援) 事業

主に医薬品の営業・マーケティング支援やBPO・人材サービスを行う事業



売上高

MR派遣業務およびBPOサービス業務において既存案件が好調に進捗したことなどにより、前年同期を大幅に上回りました。

営業利益

シミック・アッシュフィールド(株)の合併に伴う一時費用の発生などにより、前年同期を下回りました。

Topics

合併会社シミック・アッシュフィールド(株)として、受注力強化およびサービスモデル拡充に取り組んでいます。また、世界22カ国にヘルスケアサービスを展開するアイルランドのUDG Healthcare plcと戦略的業務提携を合意し、UDG社のアジア展開における強みを活かし競争力強化に取り組んでいます。

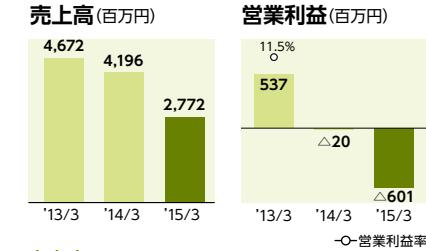
MR (医薬情報担当者): 医療機関に対して、医薬品の効能や副作用などに関する情報の提供と収集にあたる専門スタッフのこと

MR (医薬情報担当者)の派遣や医療・製薬業界向けBPO・人材サービス



ヘルスケア事業

医療機関や患者、一般消費者の医療や健康維持・増進を支援する事業



売上高

SMO業界の競争激化および前期における受注進捗の遅れにより、売上高が前年同期を大幅に下回りました。

営業利益

SMO業務の受注進捗の遅れに伴う売上高の減少などにより、営業損失が発生しています。

Topics

営業活動の一層の強化、医療機関ネットワーク拡大の推進に取り組むなど、新規受注の獲得に邁進しています。従来の受注水準までの回復には至っていないものの、前年同期に比べ受注は増加しました。プロジェクト管理の徹底と早急なコスト削減策の実施を図るなど、経営効率化のための施策を進めています。

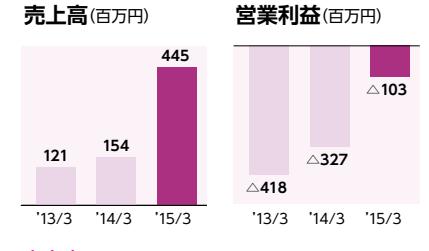
SMO (Site Management Organization) 治験施設支援機関: 臨床試験を実施する医療機関から委託を受けて医療機関の治験業務を支援する企業・組織

治験施設支援やヘルスケア情報サービス



IPD (知的財産開発) 事業

自社にて知的財産を開発する業務



売上高

診断薬の販売量の増加およびオーファンドラッグにおける新たな取組により前年同期を大幅に上回りました。

営業利益

診断薬などにかかる研究開発費および(株)オーファンパシフィックにおける販売にかかる費用などの計上により、営業損失が発生しています。

Topics

オーファンドラッグ「ブフェニール®」および「ノモサング®」の疾病認知度向上の施策を継続しています。アステラス製薬(株)とオーファンパシフィック等3製品の製造販売承認の承継契約を締結いたしました。また、東レ・メディカル(株)と共同販促などに関する業務提携を行なうなど、売上規模の拡大を図るとともに、販売経費の節減に取り組んでいます。

診断薬やオーファンドラッグなどの開発や販売



連結財務諸表

四半期 連結貸借対照表(要旨) (単位:百万円)

科目	前期 2014年9月30日現在	当第2四半期 2015年3月31日現在	増減額
資産の部			
流動資産	23,619	25,334	1,714
固定資産	25,617	29,786	4,168
有形固定資産	18,819	20,632	1,813
無形固定資産	2,470	3,615	1,144
投資その他の資産	4,327	5,537	1,210
資産合計	49,237	55,120	5,883
負債の部			
流動負債	16,406	18,644	2,237
固定負債	12,520	14,622	2,102
負債合計	28,927	33,267	4,340
純資産の部			
株主資本	20,220	21,426	1,206
その他の包括利益累計額	4	153	148
少数株主持分	85	272	187
純資産合計	20,309	21,852	1,542
負債純資産合計	49,237	55,120	5,883

ポイント
1

資産合計

総資産は前年度末に比べ58億円増加し、551億円となりました。主に(株)JCL/バイオアッセイ取得に伴う有形固定資産およびのれんの増加、本社移転による敷金および保証金の計上などによります。

ポイント
2

負債合計

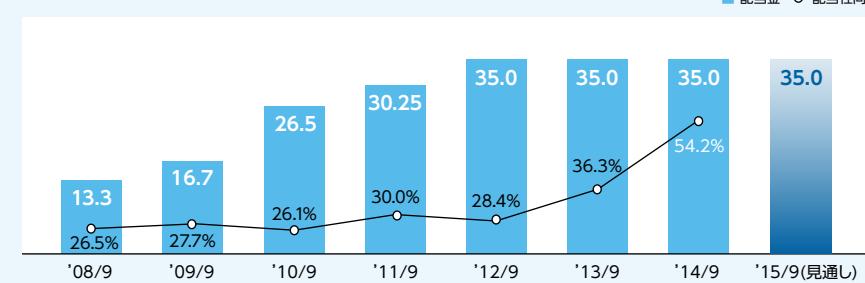
負債は前年度末に比べ約43億円増加し、332億円となりました。主にコマーシャル・ペーパーの増加などによります。

ポイント
3

純資産合計

純資産は(株)JCL/バイオアッセイの株式交換による取得に伴う資本剰余金の増加などにより15億円増加し218億円となりました。

配当金(単位:円)・配当性向(%)



※2011年4月1日付で普通株式1株につき20株の割合で株式分割しております。上記のグラフでは当該株式分割に伴う影響を加味しおよび修正を行った場合の配当状況を記載しております。

四半期 連結損益計算書(要旨) (単位:百万円)

科目	前第2四半期 2013年10月1日から 2014年3月31日まで	当第2四半期 2014年10月1日から 2015年3月31日まで	増減額
売上高	25,506	26,511	1,005
売上原価	19,889	21,490	1,601
売上総利益	5,616	5,020	△596
販売費および一般管理費	3,873	4,477	604
営業利益	1,743	542	△1,200
営業外収益	94	89	△5
営業外費用	96	249	152
経常利益	1,741	382	△1,358
特別利益	0	723	723
特別損失	75	338	262
税金等調整前当期純利益	1,665	767	△898
法人税、住民税および事業税	1,034	438	△595
法人税等調整額	△124	240	365
少数株主利益又は少数株主損失(△)	10	△25	35
四半期純利益	745	113	△632

ポイント
4

売上高

売上高は265億円と前年同期比3.9%増となりました。CRO事業・CMO事業・CSO事業・IPD事業の売上高が伸長したものの、ヘルスケア事業の売上高は減少しました。

ポイント
5

営業利益

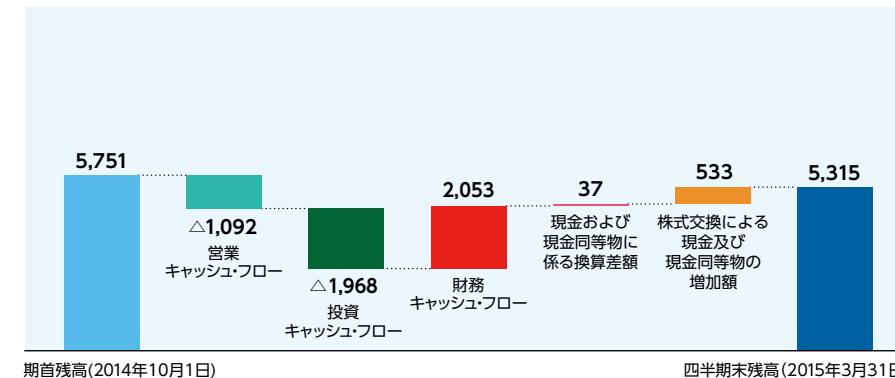
営業利益は5億円と前年同期比68.9%減少となりました。CMO事業・ヘルスケア事業の営業利益が大幅に減少したことなどによります。

ポイント
6

四半期純利益

(株)シミックMPSS(現シミック・アッシュフィールド(株))の株式売却益および受取保険金等7億円を計上しましたが、営業利益の減少に伴う経常利益の減少に加え、損害賠償金や法人税等を計上したことにより、四半期純利益は1億円と前年同期比84.7%減となりました。

四半期 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨) (単位:百万円)



ポイント
7

キャッシュ・フロー

営業C/Fは10億円の支出、投資C/Fは固定資産および投資有価証券の取得などにより19億円の支出、財務C/Fはコマーシャル・ペーパーの発行などにより20億円の収入になりました。この結果、現金および現金同等物の四半期末残高は、53億円となりました。

2015年上期トピックス

2014

11月 CSO CMO

CSO事業およびCMO事業の医薬品パッケージング業務強化のため、世界22カ国にヘルスケアサービスを展開するアイルランドのUDG Healthcare plcと戦略的事業提携を合意。

12月 CRO

CDISC推進室を新設。2016年に義務化されるCDISC*標準による臨床試験申請データ電子化への対応を促進し、受託体制の一層の強化を図る。

*CDISC(Clinical Data Interchange Standards Consortium)：非営利の臨床データ標準化団体

2015

3月 CRO

株式交換によりバイオアナリシスおよび医薬品品質安定性試験事業を行なう(株)JCLバイオアッセイを100%子会社化。(株)応用医学研究所とあわせ国内最大の医薬品分析CROへ。

11月 IPD

(株)オーファンパシフィックが東レ・メディカル(株)と「ナルフラフィン塩酸塩」の販売にあたりコ・プロモーションおよび安全管理に関する業務の実施について基本的合意。

1月 IPD

(株)オーファンパシフィックがアステラス製薬(株)の「ソマゾン®」、「ダントリウム®」、「アストミン®」の製造販売承認の承継契約を締結、4月から「ソマゾン®」販売開始。

1月 HC

アジア拠点拡充およびベトナムにおけるヘルスケア関連企業へのコンサルティング業務提供のため、ベトナムに現地法人を設立。6月から営業開始。

3月 CMO

バイオ医薬品関連分野の取組拡大のため、アメリカのバイオ医薬品開発・製造受託会社KBI Biopharma Inc. に、JSR(株)および(株)産業革新機構と共同出資。

「東証IRフェスタ2015」に出展

株主の皆様にはシミックレポートアンケートをはじめ、いつも貴重なご意見を賜り誠にありがとうございます。

2015年3月13日(金)・14日(土)の2日間、東京国際フォーラムで開催された個人投資家向けIRイベント「東証IRフェスタ2015」(主催:日本取引所グループ・東京証券取引所)に出展しました。

企業ブースを出展したほか、IR担当役員による会社説明会を実施し、70名を超える方にご参加いただきました。あらためて、当社ブースにお立ち寄りいただいた皆様、会社説明会に参加された皆様にお礼申し上げます。

当社は今後も、このような活動を通じて、個人投資家の皆様とコミュニケーションできる場を大切にしてまいりたいと考えております。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。



アンケート結果のご報告

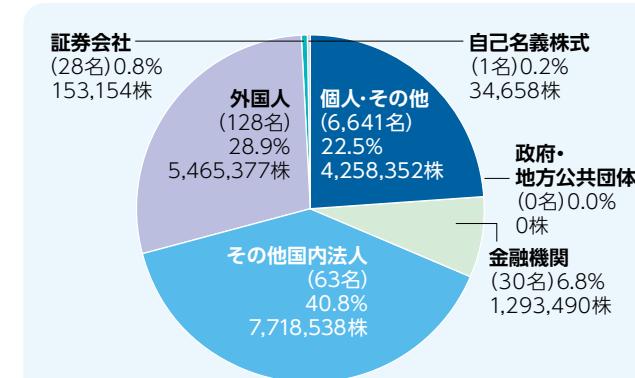
会社説明会および企業ブースにて、個人投資家の皆様へのアンケートを実施いたしました。当社の成長性や事業モデルに興味を持たれ、投資対象として「投資してみたい」「検討したい」とお答えいただいた方が約70%となりました。アンケートなどを通していただいた貴重なご意見を受け止め、企業価値向上に向けて努力してまいります。

株式の状況 2015年3月31日現在

発行可能株式総数	46,000,000株	
発行済株式総数	18,923,569株	
株主数	6,891名	
大株主	株主名	所有株式数(株) 持株比率(%)
	株式会社アルテミス	6,368,200 33.65
	株式会社キースジャパン	1,163,140 6.14
	THE BANK OF NEW YORK-JASDECTREATY ACCOUNT	1,018,800 5.38
	PERSHING-DIV. OF DLJ SECS. CORP.	1,018,332 5.38
	TAIYO HANEI FUND, L.P.	679,500 3.59
	中村和男	546,020 2.88
	シミックホールディングス従業員持株会	432,272 2.28
	TAIYO BLUE FUND, L.P.	284,700 1.50
	THE BANK OF NEW YORK 133522	231,500 1.22
	資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)	190,000 1.00

(注)発行済株式総数に対する持株比率は、小数点以下3位を切り捨てております。

所有者別の構成比率(株式数比率)



会社概要

商号	シミックホールディングス株式会社
設立	1985年
資本金	3,087百万円
本社所在地	〒105-0023 東京都港区芝浦1-1-1 浜松町ビルディング ※5月1日付で移転しました。
事業所	名古屋支社 大阪支社 九州支社
従業員数	5,646名(連結)(2015年3月31日現在)
グループ会社(連結子会社)	シミック(株) シミックPMS(株) (株)シミックバイオリサーチセンター (株)応用医学研究所 (株)JCLバイオアッセイ CMIC Korea Co., Ltd. CMIC ASIA-PACIFIC, PTE. LTD. CMIC ASIA-PACIFIC (MALAYSIA), SDN. BHD. CMIC(Beijing) Co., Ltd. CMIC(Beijing) Pharmaceutical Service Co., Ltd. CMIC, Inc. シミックCMO(株) シミックCMO足利(株) CMIC CMO Korea Co., Ltd. CMIC CMO USA Corporation シミック・アッシュフィールド(株) (株)シミックBS サイトサポート・インスティテュート(株) (株)ヘルスクリック CMIC VIETNAM COMPANY LIMITED (株)オーファンパシフィック
(関連会社)	エムディエス・シーエムジー(株) シミックJSRパイオロジクス(株)

株主メモ

事業年度	10月1日から翌年9月30日まで
剰余金の配当基準日	9月30日(中間配当を行う場合は3月31日)
定時株主總會	毎年12月
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店 みずほ証券株式会社 本店および全国各支店
郵便物送付先・ お問合せ先	〒168-8507 東京都杉並区泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 ☎ 0120-288-324(フリーダイヤル)
公告方法	電子公告(http://www.cmhc-holdings.co.jp/) ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。
証券コード	2309

ご案内

少額投資非課税制度(NISA)口座における 配当金のお受け取りについて

新規に購入された当社株式をNISA口座で所有される場合、配当金につき非課税の適用を受けるためには、口座管理機関(証券会社等)を通じて配当金を受け取る方式である「株式数比例配分方式」を、お選びいただく必要がございます。NISA口座に関する詳細につきましては、お取引の証券会社等にお問い合わせください。

シミックホールディングス株式会社

〒105-0023 東京都港区芝浦1-1-1 浜松町ビルディング
Tel 03-6779-8000
<http://www.cmhc-holdings.co.jp/>

UD FONT
by MORISAWA

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。



Made in
Fukushima

この印刷物は、復興支援の一環として、福島県の印刷会社に製造を依頼し発行したものです。

healthクリックの健康コラム

機能性表示食品制度、始まる

2015年4月、食品のパッケージなどに健康に関する情報を表示できる「機能性表示食品制度」が始まりました。この制度が始まるまで、「脂肪の吸収を抑える」というような表示ができるのは、国の審査を受けて許可された特定保健用食品(トクホ)だけでした。この制度によって、企業が科学的根拠を示す資料とともに届け出た食品は、健康に関する機能性を表示した食品として販売することができます。

野菜や果物にも

この制度は、健康食品やパンなどの加工食品のほかに、野菜などの生鮮食品を含む食品全般が対象となります。そのため、例えば「血管の健康を維持します」と表示された玉ねぎや、「肌の調子を整えます」と表示されたにんじんなどが、店頭に並ぶ可能性があります。機能性表示食品として届け出られた商品の情報は、消費者庁のサイトで公表されています。



〈栄養機能表示例〉
ビタミンCは、皮膚や粘膜の健康維持を助けるとともに、抗酸化作用を持つ栄養素です。

トクホと何が違うの?
「消費者が
知っておくべき
ポイント」とは・・・?

この続きはhealthクリックのサイトで

機能性を検索

▶「トクホ以外のブームが到来!」
機能性表示食品制度、始まる」をご覧ください。

healthクリック

「healthクリック」は、健康一般情報および疾病に関する情報を提供する日本最大級の健康ポータルサイトです。ぜひご利用ください。



病院・薬・サプリメントの情報満載!

詳細はこちらへ → <http://www.health.ne.jp>